

# [WINSTAR CAD Ver.4]からのバージョンアップ内容一覧

新設、強化のあったコマンド名のみを記載し、変更のなかったコマンドは省略しています。

[参考] 新設コマンド:183、拡張、機能強化コマンド:74

## 【ファイル】メニュー

区分記号 ◎:新設、○:拡張、機能強化

メニュー名	新設、機能拡張内容	区分
新規作成	用紙サイズに制限がありません。作成者氏名を入力できます。	○
図面を開く	ZEN形式のファイルは拡大サイズのグラフィック表示ができます。	○
追加読み込み	ZEN形式では図面メモを含んで保存します。 旧形式のZMN・ZUM形式の読み込み保存もできます。	○
図面の合成	DWG、SFC、P21、JWW、AI、NCファイル(Gコード形式)形式を追加しました。 DWG・DXF読込はコンバート精度を向上させ、文字間隔の保持も可能になりました。	○
図面削除	DWG・DXF読込保存オプション機能を追加し、以下の機能を追加しました。 ペン番号→色番号(ACI)指定。文字間隔の保持が可能。保存時英数文字のみの半角変換、対応可能な全文字の半角変換モードの選択が可能。	○
名前を付けて保存	さらに、重すぎる図面データを軽くするため微小直線の削減ができるようになり、以下の項目を追加しました。	○
DWG・DXFファイルを開く	DWG,DXF読込時 連続続微小直線の削減/DWG,DXF読込時 スプライン曲線の分割数(0-50)	○
DWG・DXFファイルを現尺で開く	[設定]-[図面保存オプション]から以下の機能を移動し、DWG・DXF読込保存オプション機能としてファイル操作時に各コマンドで指定できるようにしました。	◎
DWG・DXFファイルで保存	DWG,DXF保存時文字幅を82%に/DWG,DXF読込保存時WINSTARCAD Ver5の形式で/DWG,DXF読込保存時 1バイト文字を2バイト文字に変換しない	◎
DWG・DXFファイルを三面図で開く	DWG・DXF形式の3D図面を三面図に展開して開くことができます。 DWG・DXF読込保存オプション機能も対応しています。	◎
連続印刷	保存されている複数の図面を印刷します。	◎
連続プロッタ出力	保存されている複数の図面をプロッタに出力します。	◎
連続ファイル変換	保存されている複数の図面を他形式に一括変換します。	◎
標準図面の検索	保存されている図面中の文字列を検索対象として図面の検索を行ないます。	◎
標準、旧図面の検索	保存されている図面のファイル名を検索対象として図面の検索を行ないます。	◎
旧図面を標準図面に一括変換	旧形式の標準図面を、ZEN形式に一括変換します。	◎
ファイル拡張削除	[WINSTAR CAD]独自形式の不要になったファイルを検索し、削除します。	◎
シンボルの複写	シンボルファイルからシンボルファイルへシンボルを複写します。	◎
シンボルの削除	シンボルファイルから指定のシンボルを削除します。	◎
シンボルの名前変更	保存されているシンボルの名前を変更します。	◎
シンボルのソート	保存されているシンボルを名前順にソートします。	◎
シンボル読み込み	2点の指定により回転角度を指定できます。	○
シンボルの新規作成	用紙サイズに制限がありません。	○
EXCELファイルを開く	MS-ExcelのXLS形式、XLSX形式のファイルを開くことが可能になりました。 ※ファイル形式に対応するMS-Excelがインストールされていることが必要です。	◎
PDFファイルを開く	PDFファイルを開くことが可能になりました。	◎
PDFファイルで保存	PDFファイルに保存することが可能になりました。	◎
SIMファイルを開く	測量系データファイル形式、SIM形式ファイルの読み込みに対応しました。	◎
CSV座標ファイルを開く	XY座標点指定されたCSV形式ファイルの読み込みに対応しました。	◎
テキスト読み込み	テキスト読み込み時にエディタ画面で複数行の編集や文字サイズ設定が可能になりました。	○
JPG・BMP読み込み(倍率)	JPEG・ビットマップデータを、倍率を指定してアクティブ状態となっているウィンドウの作図画面に追加の形で読み込みます。 画像データを原寸で読み込むことが可能になりました。	◎
JPG・BMP読み込み(対角)	JPEG・ビットマップデータを、範囲枠を指定してアクティブ状態となっているウィンドウの作図画面に追加の形で読み込みます。	◎
印刷プレビュー	印刷前の状態をプレビュー画面で確認できます。	◎
印刷	「自動用紙設定」機能を追加しました。プレビューボタンを追加しました。 特定のペンのみカラーで出力できるようになりました。 プリセット機能により印刷条件を保存しておくことが可能になりました。	○

プロット出力	接続先で、USB・ネットワークへの対応が可能になりました。	○
ベクトル化ツール	JPG・BMPの画像ファイルからベクトルデータを抽出できるツールを持たせました。	◎
WINSTARCAD デュアル起動	2つめのWINSTAR CADを起動します。 同じ図面をそれぞれで開いていた場合、先に保存した側がファイルに対して権限を持ちます。	◎

【編集】メニュー

区分記号 ◎:新設、○:拡張、機能強化

メニュー名	新設、機能拡張内容	区分
アンドゥ	設定により無制限アンドゥが可能です。	○
リドゥ	設定により無制限リドゥが可能です。メニューとして独立	◎
グループ化	指定した要素をグループ化します。	◎
グループ確認	グループ要素の内容を画面上で確認します。	◎
グループムーブ	指定したグループ要素を画面上に仮表示しながら平行移動します。	◎
グループコピー	指定したグループ要素を画面上に仮表示しながら平行複写します。	◎
グループローテートムーブ	指定したグループ要素を画面上に仮表示しながら回転移動します。	◎
グループローテートコピー	指定したグループ要素を画面上に仮表示しながら回転複写します。	◎
クリップボードへコピー	[編集]-[複写]の名称を変更 画面表示色に関係なくモノクロに指定でき、太さも指定できます。	○
ストックムーブ	指定された範囲部分をWINSTAR CADのストック用クリップボードに移動します。 貼り付けの際にイメージ表示が可能です。	◎
ストックコピー	[編集]-[複写]から独立 指定された範囲部分をWINSTAR CADのストック用クリップボードに複写します。 貼り付けの際にイメージ表示が可能です。	○
ストックローテートムーブ	指定された範囲部分をWINSTAR CADのストック用クリップボードに移動し、画面上に仮表示しながら回転移動します。	◎
ストックローテートコピー	指定された範囲部分をWINSTAR CADのストック用クリップボードに複写し、画面上に仮表示しながら回転複写します。	◎
ストックセット	[編集]-[貼り付け]の名称変更、ストック用クリップボードの内容の貼り付け。 貼り付けの際にイメージ表示が可能です。	○
ホールド	指定された範囲部分をWINSTAR CADのホールド用クリップボードに蓄えます。	◎
ホールドグループ	指定したグループ要素をWINSTAR CADのホールド用クリップボードに蓄えます。	◎
ホールドセット	WINSTAR CADのホールド用クリップボードの内容を作図画面上に仮表示しながら貼り込みます。	◎
ホールド拡大縮小	WINSTAR CADのホールド用クリップボードの内容を作図画面上に仮表示しながら、縦横比を保持したまま拡大縮小した状態で貼り込みます。	◎
ホールド変形	WINSTAR CADのホールド用クリップボードの内容を作図画面上に仮表示しながら、指定の範囲枠内に縦横変倍の変形した状態で貼り込みます。	◎
マルチコピー	複写対象要素を複数回にわたって指定でき、仮表示をしながら複写します。	◎
マルチムーブ	複写対象要素を複数回にわたって指定でき、仮表示をしながら移動します。	◎

【表示】メニュー

区分記号 ◎:新設、○:拡張、機能強化

メニュー名	新設、機能拡張内容	区分
用紙変更	「作成者氏名」の項目が追加されています。	○
縮尺の一時変更	一時変更した縮尺で図面を保存することが可能です。	○
用紙の最適配置	DWG・DXFファイルなどを読み込んだ際に、正常に表示されない場合に有効なデータを作図画面に配置することができます。	◎
ペン線幅設定	ペン色ごとに作図画面上での線幅を設定します。	◎
線種パターン設定	破線、1点鎖線、2点鎖線、点線、長破線、1点鎖線A、2点鎖線Aの線種パターンを設定します。	◎
カーソル設定	ユーザー様独自のスタイルの作図カーソルを設定します。表示幅も指定できます。	◎
ペン線種の選択	カレントペンを指定します。	○
基準座標点設定	基準座標系の原点を設定します。	○
要素ペン線種取得	カレントペンを、カーソルにより指定された要素のペン番号、線種に変更します。	○
要素情報表示	カーソルで指定された要素の情報を表示します。	○
スナップ	スナップ先の検索範囲を指定できるようになりました。 スナップ機能をON/OFFできます。	○
図面情報	以下の項目が追加されています。 新規作成日時/最終更新日時/作成者氏名	○

画面情報	以下の項目が追加されています。 文字の履歴表示を使用しない／線幅と線種の実寸表示／無制限アンドゥ／適時画面表示をリフレッシュ／エアロモードで起動時にベーシックモードに切り替えて起動／Windows11,10,8,8.1及びエアロで1000要素を超える場合は間引きしてイメージ表示／複数要素指定時に指定済要素を除外しない	○
ツールバー	ツールバーを固定できるようになりました。 [作図]-[ペイント]で使用するパレット色を指定するアイコンを追加しました。 座標情報アイコンの表示サイズ変更、ツールバーのフロート表示、直前の定義状態への復帰機能	○
ツールアイコンのサイズ設定	ツールアイコンのサイズを4つのサイズから選択します。 高精細モニターを使用する際にアイコンが小さすぎる場合に選択します。	◎

【作図】コマンド

区分記号 ◎:新設、○:拡張、機能強化

階層 1	階層 2	新設、機能拡張内容	区分
直線	データから連続線	作図済みの直線からペン・線種・レイヤを取得し同属性の連続線を作図します。	◎
	データから単直線	作図済みの直線からペン・線種・レイヤを取得し同属性の直線を作図します。	◎
	線長と方向	傾斜線の長さ、カーソルによる方向指定の直線	◎
	中点と線長と角度	直線の中点を基点とする指定長さ、角度の直線	◎
	点	指定の位置に点を作図	◎
拡張直線	目盛付軸	目盛値の作図機能を追加しました。	○
	ダイヤル	ロータリースイッチ用目盛付きダイヤルを作図します。	◎
	波形線	半円が連続した状態の様な波形線を作図します。	◎
	つる巻線	コイルのような形状のつる巻線を作図します。	◎
	ジグザグ線	破断面などを図示するためのジグザグ線を作図します。	◎
	切断線	断面図を作図する際の断面位置を表す切断線を作図します。	◎
	記号付特殊直線	配線、配管図などで使用される図記号をセットした直線を作図します。記号の配置は個数、または間隔による指定が可能です。	◎
中心線	範囲枠円の中心線	範囲枠内の複数の円に指定の中心線を作図します。	◎
	対角中心線	対角の指定による十字中心線、中心線のペン、線種の指定が可能	◎
	対角線	対角の指定により対角線状の中心線を作図します。	◎
枠・多角形	四角枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	R付枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	逆R付枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	C付枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	切欠枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	小判枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	正多角形(辺長さ)	角数と辺の長さ指定による正多角形	◎
	二等辺三角形	底辺と高さ指定による二等辺三角形	◎
	直角三角形	底辺と高さ指定による直角三角形	◎
	ひし形	横長さと縦長さの指定によるひし形	◎
	ひし形(辺長さ)	辺の長さと扇角度の指定によるひし形	◎
二重枠	四角枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	R付枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	逆R付枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	C付枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	切欠枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	小判枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	対角四角枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	対角R付枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	対角逆R付枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	対角C付枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	対角切欠枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	対角小判枠	「枠の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	円	中心と半径	「円の中心表示」に「付属中心線」を追加、連続作図機能を追加
中心と直径		「円の中心表示」に「付属中心線」を追加、連続作図機能を追加	○
中心と仮想点		中心と指定された仮想点位置とのX幅、またはY高さを半径とする円	◎

円	同心円	「円の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	二重円	中心と半径、厚さ指定による二重円	◎
円弧	中心と半径	「円弧の中心表示」に「付属中心線」を追加	○
	3点(通過点)	始点、終点、通過点の3点指定による円弧	◎
	中心と始点と終点	中心点と円周上の通過点、始点と終点の指定による円弧	◎
曲線	Bスプライン	指定点を通過する、Bスプライン関数による自由曲線を作図します。	◎
	ベジエ曲線	始点と終点をなめらかに結ぶ自由曲線を作図します。	◎
	方形雲形	対角四角枠の指定により、四角ベースの雲形を作図します。	◎
	円形雲形	中心と円周点の指定により、円ベースの雲形を作図します。	◎
	楕円形雲形	対角四角枠の指定により、楕円ベースの雲形を作図します。	◎
	螺旋	横幅・縦幅・回数、横幅・間隔・回数の指定による螺旋状の曲線を作図します。	◎
文字	データから文字入力	作図済みの文字からペン・レイヤ・高さ・幅・間隔・斜体角度・縦横・フォント情報を取得し同じ属性を保持して、[文字入力]コマンドへ進みます。	◎
	データから 拡張文字入力	作図済みの文字のペン・レイヤ・高さ・幅・間隔・斜体角度・縦横・フォント情報を取得し同じ属性を保持して、[拡張文字入力]コマンドへ進みます。	◎
	複数行文字入力	エディタ画面で複数行の入力や編集ができます。	◎
	カウントアップ文字	カウントアップ文字の基点とオフセット値が指定できるようになりました。	○
	フォント変更	TrueType、OpenTypeフォントの場合、プロポーショナル対応判定を自動で行います。 前回変更したフォント名を保持しておくことができるようになりました。	○
	位置サイズ角度変更	仮想枠指定による、文字サイズ・角度の変更、扇状配置や位置の変更ができます。	◎
	範囲枠位置サイズ変更	範囲枠内の複数文字列に対して、X・Yの移動量指定による位置変更や、文字高・文字幅・文字間隔の変更ができます。	◎
	データから フォント変更	作図済みの文字のフォント情報を取得し同じフォントを保持して、[フォント変更]コマンドへ進みます。	◎
	ベクトル化	フォントが持っている状態より太く、あるいは細くした状態でベクトル化することが可能になりました。	○
	文字列検索	作図画面中から文字を検索して内容を修正することができます。	◎
	文字列置換	作図画面中から文字を検索して指定文字に置換することができます。	◎
	表作成	罫線を含む部品表を作図できます。CSVファイルの読み込み・保存が可能。	◎
	文字レイアウト	範囲枠指定による複数文字列のレイアウトを修正することができます。	◎
	文字の再配置	入力済みの複数の文字列を1行に合成して、あらためて配置し直すことができます。	◎
	複数行文字編集	入力済みの複数の文字列をエディタ画面に取り込み、複数行の編集や1行の文字数調整などができます。	◎
	文字一括編集	図面中の全ての文字列を抽出し一覧表示します。	◎
	文字の仮想枠	文字入力のため仮想の四角枠を補助線で作図します。 シンボルに対しても有効です。	◎
	仮想枠に文字入力	文字の仮想枠に文字列を均等揃えて文字を作図できます。 均等揃え以外を指定した場合は、文字高さを保持して文字を作図します。 シンボルに対しても有効です。	◎
	文字列の一部を強調	入力済みの文字列を1文字単位に分解し、フォントやペン色を変更できます。	◎
	文字列の分解	[設定]-[文字の配置設定]で指定されている配置状態のまま保持するため、文字列を1文字ごとに分解します。	◎
ハッチング	閉鎖領域指定	閉鎖図形線の認識を1000要素まで可能なように拡張しました。	○
オフセット	閉鎖領域指定	閉鎖図形線の認識を1000要素まで可能なように拡張しました。	○
	範囲枠指定	複数の閉鎖ループ線に対して、一括でオフセット線を作図します。	◎
ペイント	要素指定	指定された要素による閉ループ内の塗りつぶしをします。	◎
	閉鎖領域指定	指定された閉鎖領域内の塗りつぶしをします。	◎
文房具	角型スタンプ	図面に押印したようなイメージの、角型スタンプ、丸型スタンプ、日付入り3段スタンプを作図できます。スタンプ内の文字、フォントやサイズを自由に設定でき、形状は一般的なビジネスタイプのスタンプに準じています。	◎
	丸型スタンプ		◎
	丸型3段スタンプ		◎
	マークスタンプ	図面中にマーク形状のスタンプを作図できます。	◎
	修正テープ	図面に白色の修正テープを貼ったようなイメージのデータを作図します。	◎
補助線	文字マーカー	文字を強調するために、マーカーペンで書き足したようなデータを作図します。	◎
	要素距離補助点	指定された直線の線長、円弧要素の弧長位置に補助点をセットします。	◎
	中心と半径	中心と半径指定による円の補助線をセットします。	◎

補助線	中心と円周点	中心と円周点指定による円の補助線をセットします。	◎
	補助線削除	対象要素の指定時に、範囲枠Aモード・Bモードの指定ができるようになりました。	○
	データの補助線化	直線、円、円弧データをペン番号はそのままに補助線に変更します。	◎
	補助線のデータ化	補助線をペン番号はそのままに、直線、円、円弧の作図データに変更します。	◎

【寸法】コマンド

区分記号 ◎:新設、○:拡張、機能強化

階層 1	階層 2	新設、機能拡張内容	区分
指示線	データから注釈線	作図済みの文字サイズ情報を取得し、[引き出し注釈線]コマンドへ進みます。	◎
	引き出し注釈線	注釈文字部分のセット位置を指定することが可能になりました。	○
	引き出し注釈線(折1)	引き出し線を1回折れた状態で注釈線をセット	◎
	引き出し注釈線(折2)	引き出し線を2回折れた状態で注釈線をセット	◎
	引き出し片矢注釈線	片矢と注釈文字だけの下線部を持たない注釈線を作図します。	◎
	要素引出寸法線	注釈文字部分のセット位置を指定することが可能になりました。 [引き出し寸法線]グループから移動	○
	穴径引出寸法線	小さな丸穴のための引き出し注釈線スタイルの寸法指示線	○
	穴径深さ引出寸法線	穴の径と深さを指示する引き出し寸法線を作図します。 改正JIS製図穴深さ記号対応	◎
	穴径ざぐり 引出寸法線	穴の径と座ぐり深さを指示する引き出し寸法線を作図します。 改正JIS製図座ぐり記号対応	◎
	穴径皿ざぐり 引出寸法線	穴の径と皿座ぐりを指示する引き出し寸法線を作図します。 改正JIS製図皿座ぐり記号対応	◎
	風船	文字サイズの指定可能	○
	風船2段記入	引き出し線付き風船の入力、風船内を上下2段の状態にセット	◎
	XY座標値	注釈文字部分のセット位置を指定することが可能になりました。	○
	寸法線	面取半径寸法線	[面取寸法線]の名称を変更、円弧に対する半径寸法線機能を追加
2点の指定寸法線		指定された2点間に寸法線をセットし、内矢外矢、寸法値の位置が指定できます。	◎
2要素間隔寸法線		平行線、または同心円の間隔寸法線を作図します。	◎
引き出し寸法線	水平垂直寸法線	引出寸法線を仮表示する水平垂直方向の寸法線、引出点を先に指定 ダイアログボックスを表示せずに直接セット	◎
	水平垂直引出寸法線	引出寸法線を仮表示する水平垂直方向の寸法線、引出点を先に指定	◎
	2点平行引出寸法線	引出寸法線を仮表示する2点に平行な寸法線、引出点を先に指定	◎
	要素平行引出寸法線	引出寸法線を仮表示する指定要素に平行な寸法線、引出点を先に指定	◎
	円弧要素引出寸法線	弧長を示す引き出し寸法線を作図します。円弧の弦に対して直角に寸法補助線を 引きます。改正JIS製図の寸法数値の前に円弧の長さ記号を付けるタイプに対応	◎
	円弧要素平行 引出寸法線	弧長を示す引き出し寸法線を作図します。円弧の中心から放射状に寸法補助線を 引きます。改正JIS製図の寸法数値の前に円弧の長さ記号を付けるタイプに対応	◎
	傾斜寸法線	傾斜図形に対する寸法線を作図します。	◎
	傾斜連続寸法線	傾斜図形に対する連続引き出し寸法線	◎
	水平対称多径寸法線	直径指示の水平方向の片矢寸法線を連続的に作図します。	◎
	垂直対称多径寸法線	直径指示の垂直方向の片矢寸法線を連続的に作図します。	◎
寸法値	寸法値に枠を付る	指定の寸法値を長方形の枠で囲みます。	◎
	寸法値横方向移動	寸法値の方向角に平行に位置を移動します。公差もセットで移動できます。	◎
	寸法値移動	寸法値を自由な位置に移動します。公差もセットで移動できます。	◎
記号	幾何公差記号	幾何公差記号のみをセット	◎
	公差付き形体記号	公差付き形体記号をセット、幾何公差記号を付けてセット可能	◎
	データム記号	データム記号をセット、幾何公差記号を付けてセット可能	◎
	面の肌記号	面の肌記号をセット	◎
計測	範囲枠内合計線長	範囲枠により指定された全要素の線分の合計長さ計算	◎
	面積	閉鎖図形線の認識を1000要素まで可能なように拡張しました。	○

【加工】コマンド

区分記号 ◎:新設、○:拡張、機能強化

階層 1	階層 2	新設、機能拡張内容	区分
交点間削除	—————	連続している線分や単一の線分の一点を指定するだけで、交点と交点の間だけを 削除します。	◎

複写	基準線指定複写	対象要素を指定の基準線に沿って等倍回転複写	◎
	2点方向指定複写	対象要素を2点指定による角度で等倍回転複写	◎
	2点指定補正複写	任意の角度・サイズで作図されている対象要素を、2点指定による角度・サイズに補正し、縮小拡大回転複写します。	◎
	角度補正複写	任意の角度の対象要素を、指定の角度に補正し等倍回転複写 傾いている図形を簡単に水平、あるいは垂直に補正して複写が可能	◎
	距離補正複写	任意のサイズの対象要素を、補正後のサイズを指定して拡大縮小複写 中途半端に倍率のかかっている図形を、指定サイズに補正して複写が可能	◎
	複数指定複写	複写の対象要素を、複数回に分けて指定できます。	◎
	Z面の回転複写	回転角・距離・回数指定により螺旋階段状の図形の作図ができます。	◎
移動	基準線指定移動	基準線に円、円弧も指定可能	○
	2点方向指定移動	対象要素を2点指定による角度で等倍回転移動	◎
	2点指定補正移動	任意の角度・サイズで作図されている対象要素を、2点指定による角度・サイズに補正し、縮小拡大回転移動します。	◎
	角度補正移動	任意の角度の対象要素を、指定の角度に補正し等倍回転移動 傾いている図形を簡単に水平、あるいは垂直に補正して移動が可能	◎
	距離補正移動	任意のサイズの対象要素を、補正後のサイズを指定して拡大縮小移動 中途半端に倍率のかかっている図形を、指定サイズに補正して移動が可能	◎
	複数指定移動	移動の対象要素を、複数回に分けて指定できます。	◎
	Z面の回転移動	回転角の指定により螺旋階段状の1ステップ分の図形の作図ができます。	◎
雲形に変更	—————	すでに作図されている、直線・枠・円・楕円を雲形図形に変更します。	◎
角の修正	角の指定	コーナーになっていない2直線の修正可能	○
	辺の指定	コーナーになっていない2直線の修正可能	○
線分処理	基準線で一括処理	指定した側の対象線が残るよう機能拡張	○
	円弧・楕円弧の分解	円・円弧、楕円・楕円弧を微小直線による多角形に分解します。	◎
	円弧に合成	微小直線による多角形を認識範囲内で円弧要素に合成します。	◎
パラメータの変更	—————	レイヤ番号の指定を追加	○
ペン・線種の変更	ペンの一括変更	対象要素のペンを一括して、指定のペンに変更	◎
伸縮	直線・円弧の伸縮	直線、円弧の長さを、端点を基準にして指定値分だけ伸縮	◎
	変形・範囲枠指定	範囲枠指定による、縦横変倍の変形をします。	◎
	変形・数値指定	倍率指定による、縦横変倍の変形、回転をします。	◎
拡大詳細図	—————	詳細図用に拡大する対象を、円形に取り出します。	◎
画像	画像を奥に移動	画像やペイント図形を奥に移動し他の要素を重ねた状態に変更します。	◎
	画像を手前に移動	画像やペイント図形を手前に移動し他の要素の上に重ねた状態に変更します。	◎
図面間複写移動	図面間複写元指定	図面間複写したい対象を1回の範囲枠指定で指定します。	◎
	図面間複写元 複数指定	図面間複写したい対象を複数回の範囲枠指定で指定します。	◎
	図面間移動元指定	図面間移動したい対象を1回の範囲枠指定で指定します。	◎
	図面間移動元 複数指定	図面間移動したい対象を複数回の範囲枠指定で指定します。	◎
	図面間データセット (実寸)	図面間複写・移動の各コマンドで指定された対象要素を、元の寸法のままセットします。	◎
	図面間データセット (縮尺)	図面間複写・移動の各コマンドで指定された対象要素を、元図と複写・移動先図面の縮尺値を計算し拡大縮小して見た目が同じになるようにセットします。	◎
	図面間データセット (用紙)	図面間複写・移動の各コマンドで指定された対象要素を、元図と複写・移動先図面の用紙サイズを計算し拡大縮小して見た目が同じになるようにセットします。	◎
表示図面の軽量化	連続微小直線を削減	指定した範囲枠内の連続した微小直線を一定の長さの直線に置換します。 さらに長さ=0の点を削除します。	◎
	連続微小直線を円弧 に置換	指定した範囲枠内の連続した微小直線を可能な限り円、円弧に置換します。	◎
部分出力図面作成	—————	開いている図面から、指定の用紙サイズ、縮尺に合わせた部分出力用図面を作成します。	◎

【設定】メニュー

区分記号 ◎:新設、○:拡張、機能強化

メニュー名	新設、機能拡張内容	区分
寸法線	以下の項目が追加されています。 公差文字の比率/公差のベン番号/公差±同値時の位置/カンマ桁区切り	○
データから寸法値を設定	作図済みの寸法線の寸法値から、寸法線の寸法数値に関する設定を取得し[設定]-[寸法線]コマンドへ進みます。	◎
寸法値フォント	TrueType、OpenTypeフォントの場合、プロポーショナル対応判定を自動で行います。 標準ストロークフォントの場合も、プロポーショナル状態での配置ができます。	○
文字フォント	TrueType、OpenTypeフォントの場合、プロポーショナル対応判定を自動で行います。 標準ストロークフォントの場合も、プロポーショナル状態での配置ができます。	○
データから文字フォントを設定	作図済みの文字のフォント情報を取得し同じフォントを保持して、[設定]-[文字フォント]コマンドへ進みます。	◎
文字の配置設定	文字列内の配置バランスを設定します。	◎
付属中心線	付属中心線のレイヤ番号、ベン種、線種を設定します。	◎
その他	以下の項目が追加されています。 ～仕上記号高/訂正符号高/面の肌記号高/面の肌文字高/幾何公差記号高/幾何公差文字高/仕上・面の肌・幾何公差記号ベン番号/仕上・面の肌・幾何公差記号レイヤ番号/円弧・楕円弧の分解精度/雲形最小半径/雲形最大半径/雲形ベン番号/レイヤ管理画面の表示倍率	○
レイヤ管理	「全ペンレイヤOFF」ボタンが追加されています。	○
レイヤ名の変更	アクティブな図面のレイヤ名の変更を行ないます。	◎
ベースレイヤ名の変更	新規に作成する図面に付与するレイヤ名を設定します。	◎
対象要素の指定モード	「グループ」のモードが追加されています。	○
図面保存オプション	以下の項目が追加されています。 ZMN形式を主体に使用する 以下の機能を移動し、DWG・DXF 読込保存オプション機能としてファイル操作時に各コマンドで指定できるようにしました。 DWG,DXF保存時文字幅を82%に/DWG,DXF読込保存時WINSTARCAD Ver5の形式で/DWG,DXF読込保存時 1バイト文字を2バイト文字に変換しない	○
カスタムメニューの設定	特定のコマンドを右ボタンメニューに登録します。	◎
右ボタンメニューの設定	右ボタンメニューの表示項目を設定します。	◎
マウスホイールの設定	マウスホイールの動作を設定します。	◎
パレット管理	[作図]-[ペイント]機能で指定できる色の組み合わせを設定します。	◎
システム設定	設定の保存と取り込み、設定の初期化、関連付けファイルの設定、旧バージョンの設定の引き継ぎ	◎
文字の表示・入力時の設定	文字の画面表示や入力時の各種の設定をします。フォント表示の平準化、寸法値を半角文字でセット、「.」,「,」,「.」,「,」の字詰め、文字の簡略表示、IME自動起動のON/OFF	◎
ストロークフォントエディタ	標準ストロークフォント文字の修正や作成ができるユーティリティを起動します。	◎
標準ストロークフォントの差替	複数のストロークフォントの差し替え機能。	◎
[エーティ]フォントインストール	添付してあるユニコード対応の日本語・簡体字・繁体字・韓国語フォントをインストールします。	◎

【その他】

項目	機能内容
自動スナップ機能	自動スナップ時にカーソル位置に「HIT」の文字が表示されます。 スナップONの状態でも、キーボードによる端点・交点検索時に検索音がなります。
文字形式	ユニコード対応になりました。
図面保存形式	ZMN形式が標準形式となります。
DWG・DXFファイル	レイヤ名にも対応しています。さらに、コンバートの精度を向上させました。
デュアルモニター対応	デュアルモニター環境に対応し、最大2つのWINSTAR CADを起動できます。
高精細モニター対応	解像度の高いモニターでも快適な作図環境を作れるように4つのサイズのアイコンを用意しました。
ベン種	12種類のベン種が使用できます。
線種	点線、長破線、1点鎖線A、2点鎖線Aの4つの線種が拡張され、8種類の線種が使用できます。
状態表示のツールバー	ペン1～12、レイヤ1～12を表示するようになりました。
寸法値	「キリ、リーマ」などの文字の追加が簡単にできるようになりました。
コマンド分類	[作図]→[文字・記号]を[作図]→[文字]に変更、 [仕上記号]・[線上仕上記号]は、[寸法]→[記号]へ移動
フォント	OpenTypeフォントへ対応しました。図面中の最大フォント数が50になりました。
標準ストロークフォント	全面的に標準ストロークフォントを作成しなおしました。よりスマートで見やすい文字フォントになっています。
マウスホイールへの対応	マウスホイールを回転させることで、画面の拡大縮小、上下左右のスクロールが可能になりました。

右ボタンメニューの充実	マウスの右ボタンをクリックすると表示される右ボタンメニューを充実させました。コマンド履歴や、よく使用するコマンドを登録、ペン線種の選択も可能になりました。
文字入力の各ダイアログボックス	文字を入力する各ダイアログボックスで、以前に入力した文字内容を20個まで保持しておくことが可能になりました。
はめ合い公差	JISで規定されている、穴・軸のはめ合い公差の入力が簡単にできる選択方式に変更しました。全公差域、全等級が選択可能です。はめ合い公差が入力可能な寸法関係の全コマンドで使用可能です。
画面の見やすさ	状態表示のXY座標値アイコンに大きなサイズを用意しました。また、文字入力のダイアログボックスで文字サイズを大きくし、見やすくなるようにしました。
より使いやすく	アイコンやキーボードでしか操作できなかった機能をメニュー化することでより使いやすくなるように色々な場面に見直しを行いました。マウスの右クリックメニューを充実しました。
画面描画	画面描画の手法を見直し、各所で応答の高速化を計りました。
ユーティリティ	すべての機能を[WINSTAR CAD]本体に内蔵したためユーティリティは廃版となりました。
フォント名表示	現在選択されているフォント名をツールバーに表示できるようになりました。
標準ストロークフォントの縦書き対応	標準ストロークフォントを指定している場合でも、縦書きの長音記号やカッコ、促音などがバランスよく配置できるようになりました。
寸法数値の半角入力	寸法値の文字を半角でセットできるようになりました。
寸法値	「CR、Sφ、SR」などの文字の追加に対応しました。
画面表示の高速化	編集メニューで図形を仮表示する際の表示スピードを高速化しました
保存時のファイル名	ファイル名に、「.」(半角のピリオド)を使用できるようになりました。
作図画面	非作図領域をグレー表示にし、作図領域との区別がつきやすくなるようにしました。
カーソル表示	十時カーソルとラバーバンドが重なったときの表示を改良しました。